



令和3年度 青森市立三内中学校 学校経営ビジョン(グランドデザイン)

進 躍 調
取 動 和

一人一人が夢に向かって、仲間と共に
生き生きと活動している三内中学校

2017年(平成29年)～
※2020年(令和2年)改訂

【小中一貫教育：9年間で育てたい児童生徒像】

- ・主体的に学習に取り組み、表現(活用)する児童生徒
- ・互いに認め高め合い、思いやりをもって行動する児童生徒
- ・たくましい心と体をつくり、健康で安全な生活を送る児童生徒

【重点学校課題】

- ◆基本的な学習習慣の確立(学習環境づくり、基礎・基本の定着、適切な表現)
- ◆よりよい集団づくり(思いやりのある言動、自主的な学級活動、自治的な生徒会活動)
- ◆基本的な生活習慣の確立(自己の健康管理、基礎体力の向上)

三内中学校区小中一貫教育目標 2020年(令和2年)策定

かしこく やさしく たくましく
夢に向かって はばたく子ども
～夢をもち、実現のために努力する生徒を育てる～

【目指す学校の姿】

<学校経営の方針と重点>

- ①元気の歌声が響き、生徒が明るく、真剣に、何事にも生き生きと活動する学校
- ②教職員が一丸となって、一人一人の生徒が輝くよう、教育活動を推進する学校
- ③保護者・地域が連携する中、それぞれが役割を担い、お互いに協力し合う学校

【目指す教職員の姿】

<学校経営の方針と重点>

- ①自ら率先して学び、確かな学力の定着に向けて、分かる授業を展開する教師
- ②広い視野と高い見識を持ち、社会的責任を自覚して、生徒に信頼される教師
- ③保護者や地域に信頼され、その期待に応えて、様々な場面で連携できる教師

育成すべき資質・能力の柱である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう人間性等」につながる

【目指す生徒の姿】(努力目標)

努力目標1

主体的に学び合い、
自己を適切に表現する生徒

努力目標2

互いを認め高め合い、
思いやりをもって行動する生徒

努力目標3

たくましい心と体をつくり、
健康で安全な生活を送る生徒

令和3年度 重点目標・重点事項＝「生徒のよりよい成長と地域からの信頼を得て、教育に邁進する学校を目指して」

1 学習指導 主体的に学び合い、自己を適切に表現する力を身に付けさせる。 ①自己有用感を持てる分かる授業の実践 (「学びのスタンダード」:学習スタイル・授業の流れ・授業のUD化) ②基本的な学習習慣の確立 (授業規律、家庭学習の習慣化と充実) ③表現力の育成 (「話し合いの心得」による言語活動) ④基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用 ⑤特別の教科道德の充実 ⑥総合的な学習の時間の充実 (キャリア教育・三内丸山学) ⑦学校図書館の活用 	2 特別活動 互いのよさを認め合い、ともに高め合う集団づくりをさせる。 ①話し合い活動の充実 ②委員会活動や係活動の充実 ③縦割り活動の推進 ④合唱活動の充実 ⑤計画的な進路指導の実践 ⑥ボランティア活動の推進 3 生徒指導 互いに安心して生活できる言動を心掛けさせる。 ①基本的な生活習慣の定着 ②自己有用感の育成 (「居場所」「絆」づくりの取組の充実) ③いじめ防止に向けた取組の充実 ④教育相談の充実	4 環境整備 環境に気を配り、整理整頓、丁寧な清掃をさせる。 ①清掃の取組方の向上 ②環境美化に対する意識向上 ③安全環境の維持 ④環境マネジメントプログラムに基づく校内外の美化活動やリサイクル、省エネルギー活動の推進 5 保健安全指導 健康で安全な生活を意識し、心身の自己管理能力を身に付けさせる。 ①基本的な生活習慣の定着 ②体力の向上 ③健康管理意識の向上 ④安全意識の向上 ⑤食育指導の充実 ⑥保健安全教育の充実	6 目指す学校運営の姿 積極的な情報公開と連携・協働により、家庭と地域から信頼される学校をつくる。 ①学校運営協議会による学校運営の理解と協力 ②各種たよりの発行と学区町会への回覧 ③丸ごと参観日・保護者集会の実施 ④地域との交流と連携(学校行事への招待と地域行事への参加) ⑤保護者の学校行事への協力 ⑥学区健全育成協議会との連携(地域作品展、三校合同音楽鑑賞会等) ⑦迅速な保護者への対応(電話・家庭訪問) ⑧マチコメールと学校ホームページによる情報発信 ⑨学校支援ボランティアの活用 ⑩学校関係機関への情報提供と協力依頼 7 目指す教職員の姿 組織的に生徒の実態把握と理解に努め、生徒が安心して生活できる学校をつくる。
--	---	---	---

※ICT(Chromebook)を活用した授業の推進

- ①各教科における効果的な活用方法の研究及び実践と個別最適化学習の推進
- ②教科横断的な活用方法の研究と実践による適切に情報を発信する力の育成
- ③基本的な技能の習得と情報モラルの定着による適切な情報活用能力の育成

※特別支援教育の充実＝インクルーシブ教育の視点に立った教育活動の推進

- ①ユニバーサルデザインを取り入れた授業や教室環境の充実
- ②特別な支援を必要とする生徒への気付きと組織的な対応(個に応じた適切な指導と支援)
- ③交流及び共同学習による自己有用感もてる活動の活性化



小中一貫教育の充実(SDGsの推進と乗り入れ授業の充実)

1 学習指導部会 ①学力検査の分析と対策 ②一貫を意識した日常の授業の充実 ③話し合い活動の充実 ④系統性を持たせた総合的な学習の実施 ⑤特別支援教育の交流学習と情報交換 ⑥生徒作品の交流	2 生徒指導部会 ①自己有用感を高める活動の充実 (挨拶運動、いじめ防止への取組) ②定期的な情報交換 ③アセス・スマホ調査の共同実施と分析 ④養護教諭との連携	3 特別活動部会 ①生徒会(児童会)活動、委員会活動との連携 (リーダー会議を中心とした「もったいないプロジェクト」の推進) ②学校行事での交流 ③部活動の交流 (部活動見学会・合同部活動の実施)
---	--	--

- ①学校生活アンケートの実施による実態把握と対応
- ②主任会といじめ防止(対策)委員会の実施による迅速な対応
- ③教育相談の充実
- ④HyperQ-U及びアセスによる実態把握と適切な対応
- ⑤組織的な校内指導体制の強化
- ⑥校内研修の充実
- ⑦保護者・地域向けの研修の実施
- ⑧SCとの連携
- ⑨小学校との連携強化
(小中一貫教育の更なる充実)

